

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
2018年度（前期）指定公募
「在宅医療推進のための学会等への共催」完了報告書

「健康生きがい学会第9回大会

健康生きがいを支える福祉機器・ICT・ロボットの役割

～人生100年時代を迎えての高齢者の生き方～」

【学会名】 健康生きがい学会

【申請名】 松山 博光

【提出年月日】 平成30年12月12日

1. 実施概要

申請者等は健康生きがい学会第9回大会において、貴財団からの助成を受け、共催として、下記のプログラムにて実施した。

大会には161名の参加があり、盛会のうちに終了した。

- (1) 大会名称：健康生きがい学会第9回大会
- (2) 大会テーマ：健康生きがいを支える福祉機器・ICT・ロボットの役割
～人生100年時代を迎えての高齢者の生き方～
- (3) 開催日時 平成30年11月11日（日） 9：30～17：35
- (4) 開催会場 大妻女子大学千代田キャンパス
東京都千代田区三番町12
- (5) 主催 健康生きがい学会
- (6) 共催 公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団
公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団
- (7) 参加者数 161名
- (8) プログラム
 - ①基調講演
演題：「人生100年時代を迎えての高齢者の生き方」
講師：辻 哲夫(健康生きがい学会理事長、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)
 - ②特別記念講演
演題：「高齢者の生きがいと健康長寿との因果構造」
講師：星 旦二(首都大学東京名誉教授)
 - ③分科会（第1部）
 - 第1分科会 在宅医療の推進と生きがい
座 長：新田 國夫(医療法人社団つくし会理事長、全国在宅療養支援診療所連絡会会長)
パネリスト：杉田 美佐子(社会福祉法人小茂根の郷 東京武蔵野ホーム施設長)
西田 伸一(医療法人梶杜西田医院院長、東京都医師会理事)
米倉 直美(社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷訪問看護ステーション 藤沢所長)
 - 第2分科会 福祉機器・ICT・ロボットの活用と生きがい
座長兼パネリスト：和田 一義(首都大学東京システムデザイン研究科准教授)
パネリスト：田久保 秀樹(社会福祉法人横浜市福祉サービス協会特別養護老人ホーム新鶴見ホーム課長補佐)
山内 閑子(フランスベッド(株)営業企画本部メディカル商品企画課主任)

第3分科会 地域共生社会と生きがい

座 長：米田 佐知子（子どもの未来サポートオフィス代表、横浜コミュニティカフェネットワーク世話人）

パネリスト：岡本 溢子（NPO 法人さくら茶屋にししば理事長）

菅原 健介（株式会社ぐるんとびー代表取締役）

長谷川 幹夫（NPO 法人みぬまで暮らす会理事）

第4分科会 健康生きがい活動（自由発表）

座 長：白井 幸久（群馬医療福祉大学短期大学部教授）

発 表 者：太田 秋夫（ウエルカム三才児プロジェクト事務局長）

小田 英生（介護付有料老人ホーム伊豆高原くゆうゆうの里＞生活サービス課主任）

元橋 和吉（松戸市社会教育団体認定「まつど塾」副会長）

大和 哲（我孫子健康生きがいづくりアドバイザー協議会会員）

④分科会（第2部）

第5分科会 障害者の就労と暮らしを支える生きがい支援

座長兼パネリスト：南山 達郎（認定NPO 法人ばれっと事務局長）

パネリスト：池川 充洋（株式会社ケアコム、株式会社ヘルスケアレイシヨ
ンズ代表取締役社長）

笹川 美由紀（社会福祉法人東京都社会福祉協議会 特養分科会元
副分科会長）

第6分科会 子ども・若者の生きがい支援

座 長：阿部 彩（首都大学東京人文科学研究科教授）

パネリスト：浦田 愛（社会福祉法人文京区社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター）

栗林 知絵子（NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長）

森下 利江（港区こどもテーブルささはたっこ代表）

第7分科会 フレイル予防

座 長：神谷 哲朗（東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員）

座 長：高山 史年（医療法人社団明法会理事長）

発 表 者：フレイルサポーター、市フレイル担当者等

（東京都江戸川区、西東京市、千葉県柏市、神奈川県座間市、横須賀市、和歌山県紀の川市）

(9) 第1分科会の内容 (パネリスト・レジメより)

テーマ：「在宅医療の推進と健康生きがい」

①杉田 美佐子 社会福祉法人小茂根の郷 特別養護老人ホーム 東京武蔵野ホーム
施設長

テーマ：尊厳生（最後まで生ききる）を貫くネットワーク作り

発表要旨：

高度医療技術が進歩する中、死亡順位の1位は「癌」である。命を守る為に、末期癌であっても抗がん剤治療や免疫療法、放射線療法、遺伝子治療など様々な治療が施されています。患者は、医師から説明を受けると「先生がおっしゃるならまだ生き続けたいから治療をします。」と答え、治療を行います。しかし、癌治療による体力消耗と生命への不安により、「自分らしく生きる」という意欲を失い、「ただ生かされている」という状況が続きます。特に、働き盛りの男性が癌を発症し、社会との繋がりである「仕事」を失った時、「今、こうして生きていていいのだろうか」と心がしだいに沈んでしまい、生きる意欲を失ってしまう事が多くあります。認知症高齢者や障害を持った高齢者も同様の思いを言葉にします。地域社会には、様々な人々が生活しています。それぞれの人が持っている「得意」を生かした生活が送れたら最期の瞬間まで生き生きとした生活が送れます。この思いを基本に、地域住民や専門職、当事者や家族を巻き込んだネットワーク作りを行い、実践できる生きがい作りの事例を提示します。1例目は介護保険2号被保険者で、末期癌、介護保険サービスのデイサービス利用をきっかけに、就労に繋がったケース、2例目は認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲの方が地域の老人会で行っているグランドゴルフに参加し、友好関係を作り、生き生きと生活し続けているケースを通して、「尊厳生を貫く」ために必要なエッセンスを共有し、ネットワークを広げたいと考えます。

《尊厳生を貫くエッセンス》

1. 話し（相談）を聞いてくれる人がいる
2. 「いつまでも社会と繋がりたい。役割を持ち続けたい。」と考えている自分
3. 泣ける場所、心から笑える場所がある
4. 専門家と地域住民の繋がりがあ
5. 病気や障害を持って働ける場所やボランティア活動ができる環境がある
6. アイデアを発揮した活動ができる

②西田 伸一 医療法人梶杜西田医院院長

テーマ：生きがいのある在宅療養を支えるための医療について

発表要旨：

わが国では少子高齢人口減少のもと高齢者の高齢化が進行しており、医療分野においては、重度化の予防、重度者への適切な医療提供、希望する場所で最期まで支援する体制、が重要な課題である。今後増加が見込まれる在宅療養者のために在宅医療の充実を推進する必要がある、療養生活の質を向上させる医療が求められる。

過去現在を生きてきた自分の空間で療養すれば、病人である前に生活者であることができる。昼間は普段着に着替え、好きな時に好きなものを食べることができ、家族が側にいて好きな音楽を聴いて映画を見ることもできる。在宅療養を選択する方々が治癒しない疾病や障害を複数持っていたとしても、ご自宅で生きがいと活力を持って健康を維持することができるような支援をわれわれ医療職はより深く考察する必要があり、その人にとっての健康とは何か、という個別性の高い命題についてその都度問い直す必要がある。

多くの人に共通した「健康」の一つに、食機能の維持がある。身体機能の低下した在宅療養者にとって「食べること」は、効率的な栄養摂取を可能にし肺炎等の合併症を予防するだけでなく、生活の質を高めそれ自体が大きな生きがいとなり得る。摂食嚥下機能の低下した在宅療養者の支援には多面的な支援が必要となる。医師と歯科医師による機能評価、歯科医師による義歯調整、言語聴覚士による嚥下リハビリ、歯科衛生士による口腔ケア、管理栄養士による食形態の支援、等。しかし、これらの多くの専門職が同時に協働することは困難であり、在宅主治医をはじめ限られたスタッフが代替機能を持たねばならない。

在宅療養者の生活の中で「病気を治す医療」の出番は少ない。むしろ食支援のような「生活を支える医療」こそ重要であり、在宅医は積極的に取り組まねばならない。しかしこれらは今までの医学教育に欠落していた分野であり、生活を支えることのできる医師を育成することが医学界の大きな課題である。

③米倉 直美 社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷訪問看護ステーション藤沢所長・緩和ケア認定看護師

テーマ：住み慣れた場所で自分らしく生きぬくために

～それぞれの生きがい・訪問看護の現場から～

発表趣旨

高齢・多死社会の日本において、生活や療養の場は、病院・在宅のみならず、特別養護老人ホーム、老人保健施設、グループホーム、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホームなど多岐にわたる。

在宅や施設で生活する利用者へ訪問看護を提供していく上で、その人らしく生活していただくために「生きがいを支えたい」「生活の質を維持・向上を図りたい」と考え、

実践しているが、何がその人らしいのか、そのために看護師としてどのように寄り添えばいいのか、チームでどのように連携すればよいのか等、様々な課題に突き当たり苦慮することも少なくない。

今回は、有料老人ホームと在宅での訪問看護の事例を紹介し、それぞれの生きがいについて振り返り、訪問看護・在宅医療の今後の課題や展望について議論を深めたい。

1 有料老人ホームと在宅での訪問看護

2 事例紹介

①チーム連携が重要な、有料老人ホームへの訪問

②地域の友人や社会資源を利用し「こだわりの食生活」を続けた在宅独居利用者への訪問

3 今後の展望

(10) 主催者としての感想

今大会は、健康生きがい学会の会員を中心に、一般参加者を合わせて160名の方々に来ていただきました。

そして、大会テーマである「健康生きがいを支える福祉機器・ICT・ロボットの役割～人生100年時代を迎えての高齢者の生き方～」について学術的に研究を深める場を十分に提供することができたものと思っております。

特に「在宅医療の推進と健康生きがい」をテーマとした第1分科会は、この分野での第一人者である医療法人社団つくし会の新田國夫理事長が座長を務め、社会福祉法人小茂根の郷、特別養護老人ホーム東京武蔵野ホームの杉田美佐子施設長、医療法人梶杜西田医院の西田伸一院長、社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷訪問看護ステーション藤沢の米倉直美所長という、この分野におけるスペシャリスト3人がパネリストとなって、それぞれの専門の立場から具体的・実践的な発表をしてもらったことにより、非常に充実した内容となった。

さらに「在宅医療の推進と健康生きがい」という分科会のテーマをもとに、在宅医療の推進について、健康生きがいという視点から掘り下げて論じられた、この分科会はたいへんユニークであり、それぞれの地域における在宅医療のあり方などに対する、示唆に富むコメントがたくさん出され、とても有意義な内容だったと思います。本大会は、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成により開催しました。心より感謝申し上げます。

2. 資料

- ・健康生きがい学会第9回大会プログラム

健康生きがい学会第9回大会 開催概要

- 開催日時 平成30年11月11日(日) 9:00~18:00
- 開催場所 大妻女子大学千代田キャンパス本館E棟地下1階E055教室及び3階
(東京都千代田区三番町12番地)
- 参加費 会員500円、一般500円、院生・学生無料、当日入会の会員無料
- 主催 健康生きがい学会
- 共催 公益財団法人 フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団
公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
- 協力 大妻女子大学
- 後援 公益社団法人経済同友会 社会福祉法人全国社会福祉協議会
公益財団法人さわやか福祉財団 一般財団法人長寿社会開発センター
公益社団法人日本医師会 公益社団法人日本看護協会
公益財団法人全国老人保健施設協会 公益社団法人日本栄養士会
公益財団法人日本訪問看護財団 公益社団法人日本医療社会福祉協会
公益社団法人日本介護福祉士会 公益社団法人日本社会福祉士会
公益社団法人日本精神保健福祉士協会 一般社団法人日本臨床心理士会
社会福祉法人東京都社会福祉協議会 株式会社福祉新聞社
一般財団法人健康・生きがい開発財団
- 協賛 学校法人九州アカデミー学園 学校法人敬心学園
一般財団法人健康・生きがい開発財団 株式会社サポートジャパン
株式会社社会保険研究所 一般財団長寿社会開発センター
久光製薬株式会社
公益財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団
株式会社ルネサンス

【実施内容】

実行委員長挨拶 9:30～9:35

松山 博光（大妻女子大学人間関係学部教授）

会長挨拶（理事長挨拶）9:35～9:45

辻 哲夫（健康生きがい学会理事長）

オリエンテーション 9:45～9:50

宮島 敏（健康生きがい学会常務理事）

基調講演 9:50～10:30

演題 「人生100年時代を迎えての高齢者の生き方」

講師 辻 哲夫（健康生きがい学会理事長、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授）

特別記念講演 10:35～11:35

演題 「高齢者の生きがいと健康長寿との因果構造」

講師 星 且二（首都大学東京名誉教授）

分科会（第1部）12:45～14:45

第1分科会 在宅医療の推進と生きがい

座長：新田 國夫（医療法人社団つくし会理事長、全国在宅療養支援診療所連絡会会長）

パネリスト：①杉田 美佐子（社会福祉法人小茂根の郷 東京武蔵野ホーム施設長）

②西田 伸一（医療法人梶杜西田医院院長、東京都医師会理事）

③米倉 直美（社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷訪問看護ステーション藤沢所長）

第2分科会 福祉機器・ICT・ロボットの活用と生きがい

座長兼パネリスト：和田 一義（首都大学東京システムデザイン研究科准教授）

パネリスト：①田久保 秀樹（社会福祉法人横浜市福祉サービス協会特別養護老人ホーム新鶴見ホーム課長補佐）

②山内 閑子（フランスベッド(株)営業企画本部メディカル商品企画課主任）

第3分科会 地域共生社会と生きがい

座長：米田 佐知子（子どもの未来サポートオフィス代表、横浜コミュニティカフェネットワーク世話人）

パネリスト：①岡本 溢子（NPO法人さくら茶屋にししば理事長）

②菅原 健介（株式会社ぐるんとびー代表取締役）

③長谷川 幹夫（NPO法人みぬまで暮らす会理事）

第4分科会 健康生きがい活動（自由発表）

座 長：白井 幸久（群馬医療福祉大学短期大学部教授）

発 表 者：①太田 秋夫（ウエルカム三才児プロジェクト事務局長）

②小田 英生（介護付有料老人ホーム伊豆高原＜ゆうゆうの里＞生活サービス課主任）

③元橋 和吉（松戸市社会教育団体認定「まつど塾」副会長）

④大和 哲 （我孫子健康生きがいづくりアドバイザー協議会会員）

分科会（第2部）14：55～16：55

第5分科会 障害者の就労と暮らしを支える生きがい支援

座長兼パネリスト：南山 達郎（認定NPO 法人ぱれっと事務局長）

パネリスト：①池川 充洋（株式会社ケアコム、株式会社ヘルスケアレイシヨンス代表取締役社長）

②笹川 美由紀（社会福祉法人東京都社会福祉協議会 特養分科会元副分科会長）

第6分科会 子ども・若者の生きがい支援

座 長：阿部 彩（首都大学東京人文科学研究科教授）

パネリスト：①浦田 愛（社会福祉法人文京区社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター）

②栗林 知絵子（NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長）

③森下 利江（港区こどもテーブルささはたっこ代表）

第7分科会 フレイル予防

座 長：神谷 哲朗（東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員）

高山 史年（医療法人社団明法会理事長）

発 表 者：滝澤 洋雄 東京都江戸川区

片田 毅 東京都西東京市

中村 禎宏 千葉県柏市

梶田 洋治 神奈川県座間市

秋山 知子 神奈川県座間市

岸 昌親 神奈川県横須賀市

畠中 美文 和歌山県紀の川市

理事会報告 17：10～17：25

表彰 17：25～17：35

閉会 17：35

【参加者数】

全体 161名

分科会 1部

第1分科会 23名

第2分科会 32名

第3分科会 30名

第4分科会 23名

分科会 2部

第5分科会 13名

第6分科会 24名

第7分科会 62名

【当日の様子】

挨拶

実行委員長挨拶

松山 博光 健康生きがい学会理事



理事長挨拶

辻 哲夫 健康生きがい学会理事長



基調講演「人生100年時代を迎えての高齢者の生き方」

辻 哲夫（健康生きがい学会理事長、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授）



特別記念講演「高齢者の生きがいと健康長寿との因果構造」

星 旦二（首都大学東京名誉教授）



分科会

(第1分科会)

「在宅医療と専門職の役割」



(第2分科会)

「ロボットの活用」



(第3分科会)

「共生社会と生きがい」



(第4分科会)

「健康生きがい活動（自由発表）」



(第5分科会)
「障害者の就労と暮らしを支える生きがい支援」



(第6分科会)
子ども・若者の生きがい支援」



(第7分科会)
「フレイル予防」



表彰

審査委員長 川延 宗之 学会副会長



授与 松山 博光 実行委員長

